



LD等発達障害児・者親の会

「けやき」機関紙

第122号

2020年12月発行

発行者・代表 廣瀬登士子

けやきホームページ URL [http:// keyakitokyo.web.fc2.com/](http://keyakitokyo.web.fc2.com/)

ご挨拶

廣瀬 登士子

新型コロナウイルスの感染状況を心配しているうちにどんどん季節は変わり、今年もあと僅かとなりました。

緊急事態宣言以降、けやきも活動を自粛する期間が長く続き、会員の皆様には大変なご迷惑をおかけしています。本当に申し訳ございません。感染収束の目途が立たない中、11月下旬に役員会を開催し、今後の例会活動を以下のような形で進めていくことにいたしました。

<1>例会活動

会場に集合する方法での例会は感染状況に左右されやすいため、暫くの間は zoom を利用したオンライン例会を開催します。けやきの新しい活動の仕方として取り入れていきますので、奮ってご参加ください。

<2>機関紙

機関紙は会と会員の間を結ぶ大事なツールです。会員同士がつながりにくい今だからこそ、皆様のお声を吸い上げていきたいと考えていますので、たくさんの投稿をお待ちしています。

<3>会則の変更（会費額の見直しについて）

皆様には12月1日～9日のML上臨時総会にご協力いただき、誠にありがとうございました。議案は可決されましたので、会則第6項①を変更させていただきます。新しい会則は本会報に同封してお送りしておりますので、ご確認ください。（来年度の正会員会費は、既にお知らせしたように3,000円といたします。）

今年は皆様とお目にかかる機会が少なく、寂しい限りです。「コロナ禍でも何ができるか」を考えながら、コツコツと会の活動を積み重ねていきたいと思っておりますので、引き続きのお力添えをよろしくお願いいたします。

うがい、手洗い、マスクはコロナ対策の他にインフルエンザ予防にも効果があると聞きます。皆様どうぞ十分ご自愛されて、よいお年をお迎えください。

関東・東北ブロック会議（討論会）報告

日時：9月26日（土） 13：30～16：00

会場：オンライン（zoom）

各会の参加者が2つのテーマに分かれて、自由に意見を述べ合いました。

●テーマ1：「コロナと親の会の活動」（11名参加）

- ① 全国的な緊急事態宣言を受け、各会とも3月～6月頃まで活動を中止。総会も書面決議で行った会が多かった。
- ② 7月以降に感染者が少ない地域では入会相談会や茶話会等の活動を再開した会もあるが、それでも感染を心配してか集まりが悪い。大勢の人が集まる講演会や勉強会に関しては殆どの会が中止していた。
- ③ これからの活動は、オンライン(zoom等)の利用が必要になってくると思われるが、どの会でもチャレンジする会員が限られてしまっている。
- ④ 「参加したくてもできない人がいるのだから、会の活動は休んだ方がいい」という意見と、「参加できる人だけでもよいので、例会を再開したい」という意見があり、会員の状況がそれぞれ違うので、どちらがいいのかが分からない。
- ⑤ 自粛や休校のため家庭で過ごすことが多くなり、子どもの様子に不安を感じて入会を問い合わせる人が増えているように感じる。親の会の必要性は再認識されたのではないかと。

従来のように会員が集まることができず、どの会も活動の仕方に悩んでいるようです。地域の状況も確認しながら「zoom等を取り入れつつ、とにかく活動が途切れないようにしていこう」という意見でまとまりました。

●テーマ2：「成人本人だけが親の会へ入会する（親は入会しない）」（8名参加）

- ① 地域に当事者会が有る場合は、そちらを紹介している。
- ② 本人からの問い合わせには、関係機関を紹介することもある。

入会規定で「本人の場合は応相談」としている会もありましたが、「障害の程度が分からないと、連絡等の対応が難しい」、「本人と親の視点は異なる」等の理由で、殆どの会が本人だけの入会は認めていませんでした。

地域の当事者グループと交流があったり、直接繋がっていてもグループの情報を持っている会も多く、問い合わせがあった場合は、そちらを紹介しているそうです。親の会として程よい距離を取りながら、成人本人の皆さんと接していくのがよいのかも知れませんね。

TH



全国LD親の会研修会報告

11月21日にオンラインで研修会が行われましたので報告いたします。

全国の親の会から44名の参加がありました。

始めに理事長からのご挨拶と第2弾の新型コロナアンケート（自粛期間後の生活について）の説明があり、全体として298件の回答があったそうです。中でも次の事柄の声が聞かれました。

- ① 買い物等の通販、電子決済の情報の手続き等への意見は、46%が不安に思っていて、新しいことを自分で調べ、段取り良くできるか？ということが、不安の要因となっている。
- ② ソーシャルディスタンスについては、感覚的な言葉なので、教え方が難しい。
- ③ コロナが始まって様々なシステムが変わることに臨機応変が難しく、オンラインへの移行にも対応できない。
- ④ 就労準備では、ハローワークが混んでいて感染の心配や就労体験ができる企業が少なくなった。就労中の方も就労先と支援先がうまく連携ができていないのか心配。

仕事に関しては、未だに62%が元の環境に戻っていない、またそのうちの62%が不便や不安があると答えています。

今後、3密回避の方向に行くと、苦手なコミュニケーションを益々とらなくなり、内にもり新しい方法を得る段取りがつけられないことも考えられることと、給付金や補助金申請の利用も難しく、多くの人は親が申請したとの意見でした。

その後、分科会に入りましたが、学齢期以降の方は現在の生活の中での不安なことは比較的少なく、不安定な方もどのようにすればよいか方向性は見出されているようでしたが、電子決済などは親が分かりにくいので、親の会で勉強することや現に詐欺被害にあった人のお話も聞くことが出来ました。

今後の第2弾のアンケート調査は、第1弾と同じく、全国LD親の会HPでアップし、各親の会にも流します。今後の活動として、来年の北九州公開フォーラムは、ZOOMのオンラインで参加ができ、期間中何回でも見られるように検討しているとのことでした。

＜感想＞アンケートから見えることは、子どもの特性や生活の課題を映し出しているように思えます。また、公的な書類のわかりづらさは昔から言われてきましたが、改善の様子は見られません。福祉サービスも軽度の支援は後回しにされやすいなど、親子の不安はこのコロナ禍で、さらに増しているように見えます。でも、19時から行われた懇親会は、「コロナだから何もできない」でなく「コロナだから何ができるかという考えをしよう！！」という言葉で終わりました。そう、私たち親はどのような時代でも、先を見ていかなければいけないと感じています。全国LD親の会の良さは、連携し、支え合い、こうして繋がれることです。懐かしい人と会えたことに感謝し、後輩にエールを送る思いで、Zoomを退出しました。 N

東京都への要望書提出報告

世田谷のにんじん村さん、東京東部のルピナスさんと協力し、東京LD親の会連絡会として10月下旬に福祉保健局・産業労働局・教育庁へ郵送で要望書を提出しました。例年お願いしている項目の他に、今年度はコロナ禍の中での発達障害児・者の生活や就労、教育への支援に関しても要望を加えています。

【今年度新たに追加した要望】

<福祉保健局>

- ◆乳幼児健診でオートレフラクトメーターを使った眼の検査、眼鏡代補助制度の導入。
- ◆作業療法士、言語聴覚士等を教育機関に派遣し、療育が受けられる制度の導入。
- ◆コロナ禍で影響を受けている発達障害児・者が十分な援助が受けられるように支援機関への働きかけ、支援機関を利用している人の特性に合った感染対策の取り入れ、等。

<産業労働局>

- ◆ハローワークや就労支援機関等で、オンライン面接の訓練導入。
- ◆コロナ禍による雇い止めや失業ができるだけ起きないように、障害者雇用の促進。雇い止め・失業が起こった場合には、新たな仕事にスムーズにつけるよう支援の強化。
- ◆職場環境の変化が大きく不安定になっている発達障害者に対し、丁寧な支援を行うよう企業等に対して働きかけを要請。
- ◆感染予防で外部支援者が職場に入りにくい場合のために、職場内ジョブコーチの更なる育成、等。

<教育庁>

- ◆読み書き計算が苦手な児童・生徒がICT機器を代替の手段として学習することが当たり前となるため、更なる支援の強化。
- ◆学校環境によって適切な合理的配慮が受けられないという差別が起きないように、指導の徹底。
- ◆在学中からの職業教育の一層の充実と、社会で生きていく力をつけるためのより具体的な指導、等。

東京都との意見交換会（要望書回答）は1月に行われる予定です。詳細が決まり次第お知らせしますので、ぜひご参加ください。（密集を避けるため、人数調整をする場合があります。）

TH



ポーレポーレ活動報告

7月以降もポーレポーレの集まりはコロナ感染症の影響で中止となり、活動はZoomを利用したオンライン集会となりました。当日の様子をボランティアの方が以下のようにお知らせくださいました。

●2020年7月19日（日） 6名の参加

オンライン活動が3回目となり、みんなオンラインで話すことに少しずつ慣れてきて、話すことが増えてきてうれしく思います。お気に入りのものを画面に見せてくれたメンバーもいました。それもうれしく思いました。近況報告では、コロナ禍のこと、仕事や通勤のしかた、休日の過ごし方を工夫して過ごしていること、予防法に関する語りがありました。

●2020年8月9日（日） 7名の参加

今回もメンバーの笑顔をみられて、とても良かったです。夏休みをどうやって過ごすか、休みの日にどうやって過ごしているか、仕事についてなどの話をしました。暑さ対策、最近買ったもの、お気に入りの餃子と食べかた、見に行った映画、気になっている映画、習い事など、いろいろな話をしました。また、お気に入りの動画やゲームの名前も教えてもらえてうれしかったです。私も調べてみます。

●2020年9月13日（日） 5名の参加

欠席の3名からも連絡がもらえました。ありがとうございました。今回も、近況を報告し合いました。仕事の話、休日の話、映画の話、テレビの話、散歩の話などをしました。また、好きなお菓子、好きなアイスの話、盛り上がりました。アイスは、MOW、スーパーカップ、クーリッシュ、雪見だいふく、白熊などが話題に上がりました。

●2020年10月11日（日） 7名の参加

欠席の方からも連絡がもらえました。ありがとうございました。今回は、仕事の話、休日の過ごし方の話、テレビの話、旅行の話、小説の話、歯科の話などをしました。参加した人たちは全員、休日、家で過ごす時間が長くなり、どうやって過ごすかを考えているとの話がありました。途中で猫が登場したり、車両の写真が紹介されたりして良かったです。

●2020年11月8日（日） 7名の参加

今回は、仕事の話、休日の過ごし方の話、おいしいもの話、鬼滅の刃の話、映画の話、テレビの話、これからの予定の話などをしました。例年、12月はボウリングと、カラオケを実施していましたが、今年は、集団でボウリングやカラオケなどの活動することが難しい理由から、実施をしないことにしたいと、みなさんと話し合い、考えました。

早くメンバー全員集まって楽しく会話したいのですが、このような状況下でもポーレのメンバーがzoomを使って日々あったことを報告しあえる機会は大変貴重なものでありがたいです。（親）

「近頃思うこと、感じていること、経験したこと」 I

最近ある「親なきあと」勉強会に出席した重度自閉症の子どもを持つ友人から、「先生が『障害が重くても窓口で印鑑登録は拒否できない』と仰ったんだけど、そうなの？」と尋ねられました。彼女が住む自治体の「印鑑条例」を調べてみると、郵送で登録申請者に文書照会し、その回答書と規則で定める書類、身分証明書を申請者が窓口を持参すれば意思確認できたとするそうで、窓口で上手く受け答えできなくても登録可能なようでした。では私の住む市ではどうなのかと条例を見てみると、彼女の自治体と同様の方法に加えて口頭質問で意思確認をすると記載されていて、自分が印鑑登録した時に窓口でいくつも質問されたことを思い出しました。自治体によって違うものだと改めて感じると同時に、自分の子が印鑑登録する時には窓口の質問に正しく答えられるのか、とても気になってきました・・・。(TH)

本田秀夫先生の講演会を動画配信で拝見しました。

先生が言われる「子どもの発達特性に早期に気づき、合った方法で育てる。他者に相談できる子に育てる。」という言葉が身にしみました。二次障害や問題行動への具体的な家族の接し方についての内容もありがたかったです。

息子がうつになった経過を追体験し、苦い思い出がよみがえりました。担任に生活態度を強く叱責される、必死に友達についていこうとしてからかいの対象になる、できないことをなじられて同級生に乱暴する、乱暴したことを責められて親に反省文を書かされる…20年前、私も教員もうまく対応できませんでした。家庭で、学校で、発達に特性のある子どもが二次障害を起こさず健やかに育てることができますように願っています。 Y.S

親なき後

With コロナで、様々な社会様式が変わってきました。今後もすごい勢いで変わることが予想されますが、この状況下において障害者雇用がどのように変化し、障害者支援の資源がどのように変化するか想像できません。その中で、「親なき後」を考えるともっとわかりません。

でも、現在将来について対応できることは、子供と支援機関とのつながりを多く持ち、かつ強いものにしていくことしかないと考えています。そのためには、どうすれば良いのか試行錯誤している日々です。そのヒントを頂けるのが「親の会」だと思ってその存在に感謝しています。 MT

「近頃思うこと、感じていること、経験したこと」Ⅱ

去年までのことを思うと、あまりの状況の違いに、自分ではどうすることもできないもどかしさ、不安、イライラ、果ては怒りまで。これは子供たちも同じでしょう。我が家の場合は子供は遠くの他県に住んでおり、対面のサービス業に従事しているので、感染地域の東京から様子見に行くことは、難しいです。話しが少しありますが、他県に住む90歳の父が、しばらく来んで（来ないで）くれんか、と電話してきました。しかたないと思うものの、子や親に対して自分が実際にその場に行って支援できないのは、本当につらいです。毎日の生活状況はどうなっているのか、栄養のあるものを食べて健康的に暮らしているのか、不安ばかりです。電話したところで「大丈夫。元気。」との返事ばかり。まずは、母（親に対しては子供の立場で）の勘で、声の調子等、微妙なところで判断し、また本人の周りの人達にも声かけ、支援してもらう、そういう遠隔支援が築けていけたらと思っています。 (YA)

けやきの原点

「親の会けやき」の名付け親は、東京学芸大学名誉教授の上野一彦先生です。

1988年の機関誌第1号には、「四季を通して天空にのびのびと枝を広げる姿は、子どもたちの明日の成長を願うにふさわしい樹と思ったからです」とあり、結びでは「子どもを人間として豊かに育てていく会として発展してほしい」「けやき育て！」とあり、その心強い言葉に何度励まされたことかと振り返っています。

例会に参加する会員が多くなったころ、一人のお母さんが泣きながら会場に入りました。

各役員は忙しく、何もできませんでしたが、帰りに「これで次の例会まで心を支えることができます」とほほ笑んで帰りました。終了後に会長と「これがけやきの原点ね」と話しました。日々の生活で羽を休めたい為に来る人もいて、休まなければ、どうにもならない時もあります。親の会は、身近で大切な役割を果たしていると改めて感じています。手元の機関誌を通して、発足当時を思い出しながらわが子の成長に感謝する今日この頃です。

(ホームページLD等発達障害児・者親の会「けやき」(fc2.com)には2008年からの機関誌が掲載されています) N



本の紹介コーナー

●障害のある子が「親亡き後」に困らないために今できること

著：鹿野佐代子、明石久美 PHP研究所（2020年10月1日発行）

障害者福祉事業団の職員として勤務されてきた鹿野氏と、ファイナンシャルプランナーで相続・終活コンサルタントの明石氏の共著。知的・発達障害のある子どもを前提に、しておいた方がよいと考えられる対策について解説されています。我が家は一人っ子なので、「頼れる身内がない場合の対策」の項を特に興味を持って読みました。

●障害のある子が「親なき後」も幸せに暮らせる本

著：鹿内幸四朗 監修：杉谷範子 大和出版（2020年8月31日発行）

著者の鹿内氏は相続知財鑑定士で、ダウン症のお子さんがいらっしゃるそうです。主に財産管理について書かれており、子どもが未成年のうちに親が親権を行使し、子の代理として夫婦がともにたすき掛けで任意後見契約を結ぶ「親心後見」を提案されています。「親心後見」に当てはまらなくても、「遺言の作り方」等が参考になりました。

（TH）

編集後記

「ネット難民」!

最近よく耳にします。「GOTO Travel」「GOTO Eat」「GOTO Event」等の色々な支援策が話題となっています。

しかし、これを利用するには・・・!?

まさにネット難民化した私がここにいました。この「GOTO～」を利用しようとしてやっとお目当てのサイトにたどり着いてもすでに「完売」「終了」の文字が表示されていました。何という早さなのでしょう! 驚きでいっぱいです。

また、色々な割引を合わせ技で利用することも難しく困難を極めています。いかに多くの正しい情報を早く手に入れることができるのでしょうか? このようなネット社会のスピードに付いていけない私は、「脱・ネット難民」を掲げ努力をするつもりです。

しかしながら、このようなネット社会では、「もうけ話」にすぐに飛びついてしまう状況を生み出しているような気がしてなりませんし、この状況だから、詐欺が横行しているのではないかとも思っています。ですから正しい情報を見極める能力を身に着け、詐欺には十分注意をするように心がけたいと思います。 MT

